

〈第29回〉 西里校区 徳王子ども会(2) 「疫病籠り神事」 育成会会長 松村紗織

令和3年7月25日(日)徳王菅原神社で「疫病籠り神事」が行われ、子ども会も参加しました。

江戸時代から徳王地区にある『徳王菅原神社』で、昔は疫病が夏に流行していたことから、毎年夏に神様にお祈りをしてお祓いをしてもらう習慣があり、それが代々今日まで残り、『徳王菅原神社 疫病籠り』という行事になったといわれています。

『徳王菅原神社 疫病籠り』では、人形(ひとがた)1枚に1人名前を書いて、家族人数分を袋に入れて、それを神社にお納めしてお祓いをして頂きます。

子ども会からは、高学年の5人が参加し、子ども会代表として1人が神殿に上がらせて頂き、お祓いをして頂きました。

代表を務めてくれた子は、「とても貴重な体験が出来て良かったです。」
とっていました。



昔は疫病から身を守るため、お祓いをして頂いていましたが、現代も新型コロナウイルス感染症という病から身を守って頂いて、子どもたちが元通りみんなで元気に遊べるように、収束を願い祈りました。



徳王菅原神社

←正面

↓拝殿



中で厳かに神事が行われています





神事の様子



お払いをして頂く「大祓人形 (ひとがた)」



子ども会の参加



【事務局から】

事務局長 白石和典

- ① 珍しい行事の報告ありがとうございます。江戸時代からの伝統の行事とは大変素晴らしいですね。しかも、正に今現在の日本中の、いや世界中の人々の願いに合致した行事です。代表の子どもが言っているように貴重な体験が出来ましたね。疫病は形は変わっても昔も今も恐ろしいものです。お払いして神様から守って貰うと共に、子どもたち自身は今後の様に行動しなければいけないかも考えたことと思います。
- ② これからも、地域の行事、伝統の行事を大事にして、子ども会の皆さんで支えていってください。それらに参加することで子どもたちの視野も広がり、成長へと繋がると思います。徳王子ども会の益々の発展と、子どもたちの健やかな成長をお祈りいたします。

